

名詞における言語化される意味

保田祥

神戸大学大学院人文学研究科

sayasuda@stu.kobe-u.ac.jp

1. はじめに

Fillmore&Atkins (1994 など) は、概ね辞書に記載された意味や例文ではコーパスで見られる全てをカバーできないという¹。しかし、百科事典的な全ての意味がコーパスに現れるのではなく、コーパスから得られる意味は限定的であるともいえる。言語資料から得られる意味とはどのようなもので、意味を得るのに言語資料はどこまで有用なのか。ここでは特に、名詞の意味について意味を調査・考察することを試みることにし、本稿は名詞「兎」について、国語辞書（一般生活語彙を扱う現代語辞書 9 冊）に記載された意味を調査したほか、辞書の意味とコーパス用例（『新潮文庫の 100 冊』使用）の異同を観察するとともに、イメージ調査（ことばで表現しないイメージ画とことばで表現する連想語）の結果とも対照し、用例から得られる名詞の意味範囲を探る。

2. 辞書に記載された意味

まず、現在発行されている辞書項目に記述された意味を確認する。調査に用いた辞書²は以下の通りである。

集英社国語辞典（94,000 語） 角川国語辞典（75,000 語） 三省堂国語辞典（76,000 語） 新明解国語辞典（75,000 語） 岩波国語辞典（63,000 語） 講談社国語辞典（76,000 語） 明鏡国語辞典（70,000 語） 新選国語辞典（87,000 語） 現代新国語辞典（75,000 語）

ここでは、上記の辞書から確認できる意味についてまとめる。表 1 は、名詞「兎」について調査した辞書に現れた以上のうち、各々の辞書にそれぞれ記載があるかどうかを確認したものである。

単独で説明項目がある場合は、説明文の中に記載がある場合は、説明文中に一部の記載がある場合は、例文で記載がある場合は、例文中に記載がある場合は、いずれの記載もない場合は×を記した。

なお、表の分類には、視覚的特徴（全体像や構成要素、付随要素など）・種別（指示対象の種類など、比喻用例の項目を含む）・性質的特徴（視覚的には現れない機能や目的、気質などの特性）・行動（対象としてでない自発的行動、発生要因を含む）の項目をたてた。以降の調査も同様に分類を行っている。

辞書に意味として記載される項目には、それほどばらつきはないことがわかる。

3. イメージ調査で現れた意味

3.1. 調査方法

被験者は主に 30 代の男女 15 名（若干名の前後 20・40 代を含む）で、「簡単なアンケートにご協力ください」と依頼し、了解を得た。方法は以下の通りである。

一枚を三つに分割したシートを配布し、「これから言う三つのものの絵(A)と、思いつくこと(B)を自由に書いてください」とのみ依頼した。

「兎（うさぎ）」と音声で³告げた。

¹ Fillmore らの主たる分析では、動詞の risk と crawl を扱うが、「名詞は動詞よりもさらにシステムティックな取り扱いが可能」だと述べる（1992, P.354）。

² 以下の基準で選出した。

国語辞典（日本語の語彙を目的としたもの）

現代語辞書（編集方針などを確認・主として古語や語源を扱わないもの）

一般生活語彙（固有名詞を含まず、専門用語なども最低限度であるもの）

³ 音声で告げることとしたのは、「兎」「うさぎ」「ウサギ」など、表記でイメージ差が発生する可能性を鑑みたためである。

辞書名	版	視覚的特徴										種別		
		構成			構成要素							属		種別
		白	褐色	小型	耳	長後足	赤目	短尾	兎唇	短前足		動物	飼い	野生
集英社国語辞典	2	×	×	×	○	○	×	×	×	×		●	○	●
角川国語辞典	新	×	×	×	○	×	×	×	×	×		○	×	×
三省堂国語辞典	5	×	×	○	○	○	×	×	×	×		○	×	×
新明解国語辞典	5	○	×	○	×	×	○			×		○	×	×
岩波国語辞典	5	×	×	×	○	×	×	×	○	×		○	×	×
講談社国語辞典	3	×	×	×	○	○	×	×	×	×		○	×	×
明鏡国語辞典	1	×	×	×	○	○	×	×	×	○		●	×	×
新選国語辞典	8	○	○	×	○	×	○	○	×	×		●	●	●
現代新国語辞典	4	×	×	×	○	○	×	×	×	×		○	×	×

◎: 単独で説明項目がある
○: 説明内に記載がある
●: 説明内に一部記載がある
△: 例文の記載がある
▲: 例文内に記載がある
×: 記載なし

辞書名	版	性質的特徴								行動など		
		性能		目的				性質		行動		
		草食	速足	食肉	毛皮	愛玩	医学	家畜	おとなし	跳ねる	月に住	餅つき
集英社国語辞典	2	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	×
角川国語辞典	新	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×
三省堂国語辞典	5	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
新明解国語辞典	5	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×
岩波国語辞典	5	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×
講談社国語辞典	3	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
明鏡国語辞典	1	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○
新選国語辞典	8	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×
現代新国語辞典	4	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×

【表1 国語辞書に見える「兎」の意味】

3.2. 調査結果 A (絵)

図示された特徴をまとめた結果が表2である。イメージ図であるため、表されるのは視覚的な特徴に限定される。

調査対象語のイメージ図は、どの図も似たような傾向となっているといえる。バリエーションはほとんど見られない。但し、頭部が全体か、また構成要素や付随要素(月など)において若干の種類が存するようである。

3.2. 調査結果 B (連想)

連想に関する調査結果は表3のように現れた。数値は数である。

絵の補足説明と考えられる記載も見られるが、逆に絵がそれらしくあるために説明をしていない場合、図示が明確であっても同様の記述が為される特徴(「耳」など)もあると見えるため、ここではAとBの調査は別のものとする。また、個人的な知識によると判じられる回答が見られるため、回答数は複数(二人以上)あった結果のみをまとめた。

なお、図示がモノクロであったために、色についての記載が多く見られるようである。

視覚的特徴					
構成	構成要素				付随
頭のみ	長耳	耳折	短尾	ヒゲ	月
2	13	2	11	6	2

【表2 イメージ図に見える特徴】

視覚的特徴						種別		性質的特徴		行動
構成	構成要素		付随	属	種類	性能		行動		
白	小さい	ピンク	耳	赤目	月	物語	商品名	足速	かわいい	やわらか
11	3	3	5	4	2	4	3	2	7	2

【表3 連想で現れる特徴】

4. コーパスに見られる意味

用例を調査し、用例から見える意味の分類を行った。

4.1. 調査方法

調査対象には、近現代(明治以降)の口語体小説を用いた⁴。

また、均衡コーパスを用いることが望ましいが、本発表では、他語の調査との差異が確認できるよう、母集団を

⁴雑誌やWebより収集した例には用例に偏りが見られたためである。

固定する目的で、『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』、『CD-ROM 版 新潮文庫 明治の文豪』、『CD-ROM 版 新潮文庫 大正の文豪』、『CD-ROM 版 新潮文庫の絶版 100 冊』に含まれる小説・随筆のみを調査に用いることとした⁵。なお、当該語を含む用例数については、翻訳小説や詩歌を除いたほか、人名や地名などの固有名詞、複合が固定化している等で語と直接関係がないと考えられる名詞を除く⁶。

4.2. 調査結果

4.1.の方法により、上記コーパスからは以下の用例が収集された。

「兎」を含む用例 ⁷	315 例
「兎」(本稿の調査対象)	207 例

収集した用例から名詞の意味を抽出するにあたっては、調査対象とする語を意味の不明な空箱として設定し、結びつく語の要素が箱の中に補給される意味として捉えることとした⁸。そのため、分析対象の語は不明なものとするも、文脈(とそれらを構成する語)に関してはある程度の知識を有するものと考えを前提とする。

例 1) 生徒は今、何をたくらんでいるか、なんてことばかり気にしている主任の教師には、ウサギの絵を
かいて、とくべつ大きな耳をくっつけてやる。(山本有三「路傍の石」)

例 2) だが、間もなく船は亀島沖に来てゐた。ここから島原半島に至る間は浪が荒く、白い浪が兎のやうに走
る。(上林暁「聖ヨハネ病院にて」)

例 1 からは、「ウサギ」の「絵(描かれる対象)」「耳」が「くっつ」いている、という特徴が見える。また、例 2 からは、「白い浪」が「兎」のように「走る」という結びつきが見えるため、それぞれ「白い」「走る」という意味が見られたものとする。但し、特に比喩の用例については小説全文を通してのみ喩える対象が理解可能であるような場合もあるため、ここでは対象語を含む前後の文までを抽出の判断基準として限定している。

5. 比較

4 で取得した用例の母数の 5%~10%にあたる複数の用例が見られた特徴について、2.3.の結果と対照を行ったものが、表 4 である。それぞれの調査における出現数(取得用例数)を母数とした出現割合を示している。なお、辞書語釈については、表 1 における ~x をそれぞれ 5~0 として辞書の記載度合いを算出し、その条件での最大数(最大種類の 9 冊×最大記載度合いの 5=45)を母数とした。

名詞に関する対象のイメージはほぼ固定化しているものと考えられる。

イメージに明らかであり、辞書語釈でも明示されやすい特徴(「耳」や大きさ(掴む・手で提げられるなど、類推可能な用例はある)など)については用例に見られない。用例では、一般に明らからしい特徴が見られるのは、敢えてイメージの補正を行わねばならないときや、比喩に用いられる場合などに特徴を強調しておくときのような、必要な場合に限られるためであろう。

上位概念(動物であることなど)は辞書の語釈でのみ記述されている。イメージではそれらを踏まえて描かれる(四足など)ことがほとんどであり、コーパス用例では記述方法(他の動物と並列的に記述が為される)で、そのことが示唆される。直接的に語られるかどうかという問題がある。そのほか、絵にのみ半数ほど描かれる特徴(「ヒゲ」など)は、上位概念の一般的なイメージであろうと考えられるが、辞書や用例に現れることはなく、意味とし

⁵ 4 種類のうちで重複する 10 作品は、『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』掲載版を取り扱い対象から外すことで統一した。

⁶ 人名や地名、行事のほか、用字などを対象外とする。語源はともかく漢語として既に和語そのものとは離れていると考えられる語を除外する。漢語であるかどうか曖昧な語についても、ぶれる可能性を考え除外する。和語であっても、そのものからはぶれる複合語と考えられる語は除外する。一作品のみで限定的な使用が為されるなど、使用したコーパスで特徴的に用いられている固有名詞的語については、固有名詞に準ずると考え、本研究では対象外と考えた。物や動植物名称として固定的な接頭辞は、用例分析においては対象外とした。但し、接頭辞であっても対象語に準ずる場合は含めている。

⁷ 「ウサギ」「うさぎ」を含む。

⁸ Fillmore&Atkins (1994) でも、名詞 turkey の意味の区別につき、「gobble と結びつく」場合は「動物」、「roast と結びつく」場合は「食物」とする考え方を示している。

て捉えるべきものなのか一考の余地がある。

逆に、絵で表現しにくい部分(「赤い目」など)は語られる傾向にあると考えられる。すなわち、文脈から判断可能な場合、直接語る必要はない。もしくは、語られない前提があり得るということであろう。

分類	視覚的特徴															
	全体					構成要素										付随
意味(特徴)	白	褐色	小さい	ピンク	頭のみ	長耳	耳折	後足	赤目	短尾	兔唇	前足	ヒゲ	顔	毛	月
辞書語釈	17.8%	8.9%	17.8%	－	－	71.1%		44.4%	17.8%	8.9%	8.9%	8.9%	－	－	－	2.2%
絵	－	－	－	－	13.3%	86.7%	13.3%	－	－	73.3%	－	－	40.0%	－	－	13.3%
連想	73.3%	－	20.0%	20.0%	－	33.3%		－	26.7%	－	－	－	－	－	－	13.3%
コーパス	3.9%	1.4%	1.4%	1.0%	0.5%	2.9%		－	2.9%	－	0.5%	0.5%	－	1.4%	1.0%	0.5%

分類	種別						
	属			種類			比喻
意味(特徴)	動物	他並列	物語	飼い	野生	商品名	人(喩)
辞書語釈	73.3%	-	11.1%	4.4%	-	-	-
絵	80.0%	-	-	-	-	-	-
連想	-	26.7%	-	6.7%	20.0%	-	-
コーパス	1.0%	19.8%	0.5%	1.0%	1.9%	-	23.2%

分類	行動など					
	行動					
意味(特徴)	跳飛	餅つき	駆走	逃げる	脱兎	暴れる
辞書語釈	62.2%	8.9%	-	-	-	-
絵	-	-	-	-	-	-
連想	33.3%	-	-	-	-	-
コーパス	6.3%	-	4.3%	1.4%	4.8%	1.0%

分類	性質的特徴															
	性能					目的										性質
意味(特徴)	草食	速足	かわいい	やわらか	弱い	食肉	毛皮	愛玩	医実験	飼う	被描写	狩・捕	追う	二兎	吊下	おとなし
辞書語釈	17.8%	8.9%	-	-	-	53.3%	53.3%	8.9%	8.9%	8.9%	-	-	-	-	-	17.8%
絵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
連想	6.7%	13.3%	46.7%	13.3%	-	6.7%	13.3%	-	-	6.7%	-	-	-	-	-	-
コーパス	1.4%	2.4%	2.4%	1.9%	-	4.8%	3.4%	-	0.5%	2.4%	2.4%	4.8%	2.9%	1.9%	1.4%	0.5%

【表4 イメージ・辞書語釈・用例に見られる意味の対照】

【参考文献】

Fillmore, Charles J. and B. T. S. Atkins (1992) Towards a frame-based organization of the lexicon: The semantics of RISK and its neighbors. In Lehrer, A and E. Kittay (Eds.) Frames, Fields, and Contrast: New Essays in Semantics and Lexical Organization. Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates, 75-102.

Fillmore, Charles J. and B. T. S. Atkins (1994) Starting where the dictionaries stop: The challenge for computational lexicography, In Atkins, B. T. S. and A. Zampolli (Eds.) Computational Approaches to the Lexicon. Oxford: Oxford University Press, 349-393.

國廣哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店

國廣哲弥(1997)『理想の国語辞典』大修館書店

深田・仲本(2008)『概念化と意味の世界』研究社

松本曜編(2003)『認知意味論』大修館書店

初山洋介(2003)「認知言語学における語の意味の考え方」『日本語学』22(10)

【引用・参照資料】

『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』『CD-ROM 版 新潮文庫 明治の文豪』『CD-ROM 版 新潮文庫 大正の文豪』

『CD-ROM 版 新潮文庫の絶版100冊』新潮社

『岩波国語辞典』第六版(2000)岩波書店・『角川国語辞典』新版(1969)角川書店・『現代新国語辞典』第四版(2008)学習研究社・『講談社国語辞典』第三版(2004)講談社・『三省堂国語辞典』第五版(2001)三省堂・『集英社国語辞典』第二版(2000)集英社・『新選国語辞典』第八版(2002)小学館・『新明解国語辞典』第五版(1997)三省堂・『明鏡国語辞典』初版(2002)大修館書店・『日本国語大辞典』第二版(2000)小学館